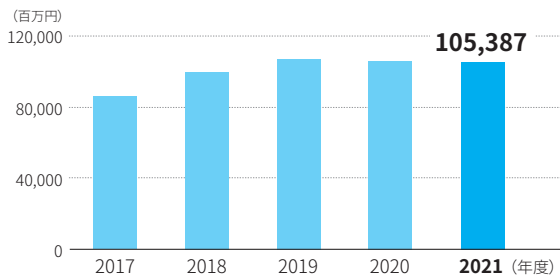


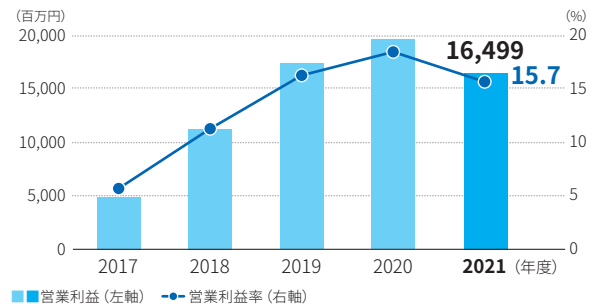
財務・非財務ハイライト

売上高



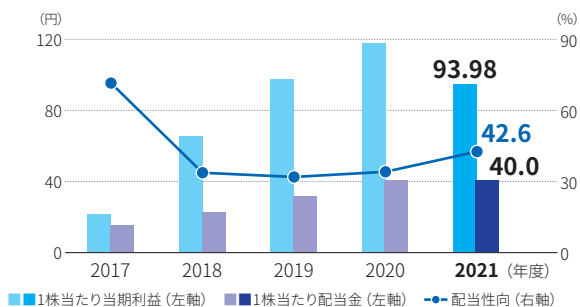
売上高は、105,387百万円(前年同期比0.5%減)となりました。通信計測事業においては、5Gチップセットおよび携帯端末の開発需要が堅調に推移しました。また、データセンター等でのネットワーク高速化に向けた開発・生産関連需要も獲得しましたが、世界的な半導体不足や米国でのCバンド商用化スケジュールの遅れなどにより減収となりました。PQA事業においては、アジアや米国などで食品市場の設備投資が堅調に推移し増収となりました。

営業利益／営業利益率



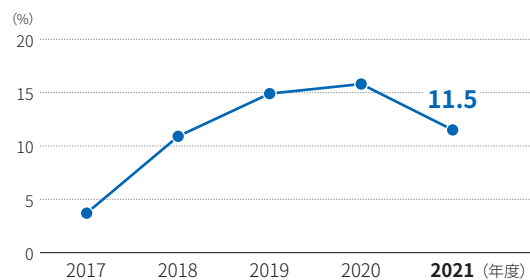
営業利益は、前年同期比16.0%の減益で、16,499百万円(営業利益率は15.7%)となりました。通信計測事業においては、半導体不足による部品調達費用増、販売促進費用および固定資産除却損の計上により、前年同期比14.2%の減益で、営業利益は、15,202百万円(営業利益率20.7%)となりました。PQA事業においては、半導体不足による部品調達費用の増加、物流費の増加、およびプロダクトMixにより、前年同期比12.5%の減益で、営業利益は1,173百万円(営業利益率5.3%)となりました。

1株当たり当期利益／1株当たり配当金／配当性向



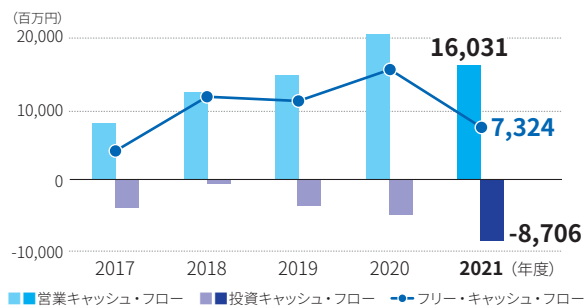
2021年度の1株当たり当期利益は93.98円(前年同期比23.2円減)、年間配当金は40円(前年同期比同等)、配当性向は42.6%となりました。連結当期利益の上昇に応じてDOEを上げることを基本にしつつ、配当性向30%以上を目標としており、年2回の配当を行う方針です。自己株式の取得は、財務状況、株価の動向等を勘案しながら、必要に応じ適切に実施していく方針です。

自己資本当期利益率 (ROE)



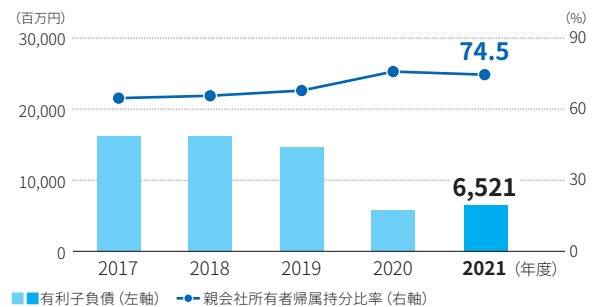
2021年度のROEは、当期利益の前年同期比3,301百万円減少により、11.5%(前年同期比4.3ポイント低下)となりました。アンリツは中長期的な企業価値最大化と財務の安定性維持を図るため、「ROE (Return On Equity)」と「親会社所有者帰属持分比率(自己資本比率)」をKPIと捉え、投資資本の効率性改善と財務の安定性維持に取り組めます。

キャッシュ・フロー



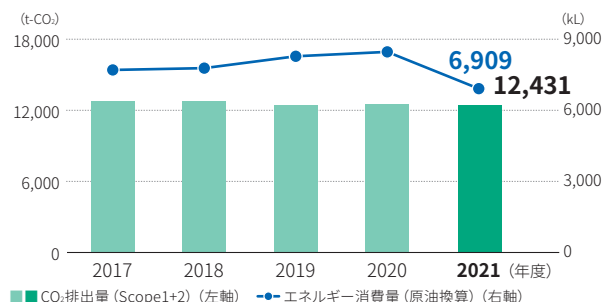
2021年度の営業キャッシュ・フローは、税引前利益の計上により資金が増加し、結果として16,031百万円のプラスとなりました。投資キャッシュ・フローは、2022年1月4日の高砂製作所の取得による支出が主な要因となり、8,706百万円の支出となりました。その結果、フリー・キャッシュ・フローは7,324百万円のプラスとなりました。

有利子負債／親会社所有者帰属持分比率



リース債務が増加したことにより、有利子負債残高は6,521百万円(前年同期比673百万円増)となりました。主に利益剰余金が増加した一方、自己株式の取得により、親会社所有者帰属持分比率は74.5%(前年同期比1.3ポイント低下)となりました。

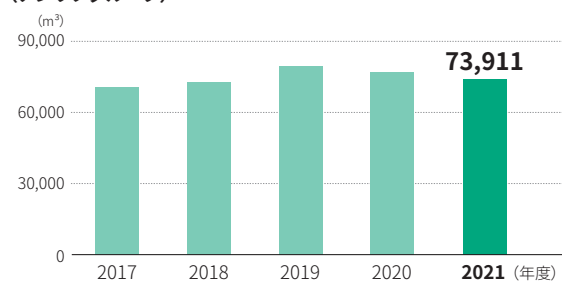
CO₂排出量 (Scope 1 + 2) / エネルギー消費量 (原油換算) (アンリツグループ)



アンリツグループのCO₂排出量 (Scope1+2) の98%以上はエネルギー消費によるものです。2021年度は、Anritsu Company (米国) に設置した太陽光発電設備によりCO₂排出量 (Scope1+2) は前年同期比1.0%減少の12,431t-CO₂となりました。

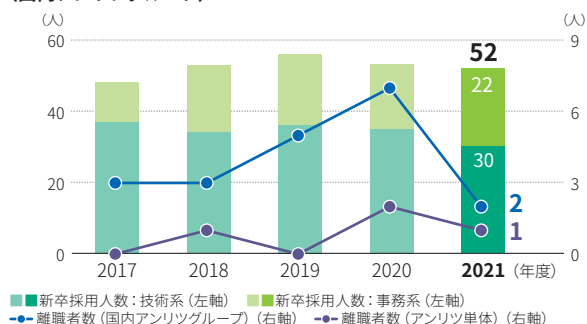
また、2021年度のアンリツグループ全体のエネルギー消費量 (原油換算) は、前年同期比18.3%減の6,909kLとなりました。

水使用量 (アンリツグループ)



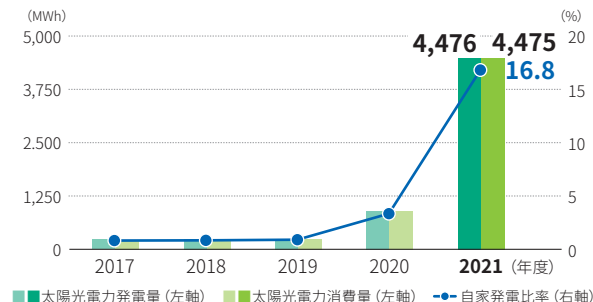
グローバルで在宅勤務を実施したことにより、2021年度のアンリツグループの水使用量は、前年同期比で4.1%減少しました。また、2021年度の水使用量削減の目標は「国内アンリツグループの水使用量を62,000m³ (概ね2019年度の水準) 以下に維持する」でした。この目標に対し、2021年度の国内アンリツグループの水使用量は53,784m³となり、前年同期比2.9%削減となりました。

新卒採用人数 / 入社3年目の離職者人数 (国内アンリツグループ)



国内アンリツグループの2021年度新卒採用者 (2022年4月入社) は、技術系30人、事務系22人の合計52人でした (目標採用人数81人)。技術系の割合は58%で、前年の66%を下回りました。入社3年目の離職者数は、アンリツ単体では例年0~2人程度ですが、2018年度からグループ会社の離職者数が増加しています。国内アンリツグループでは2020年度から「グループ統一採用」を開始しました。今後も、育成プログラムを充実させ、新卒採用者の定着率を向上させていきます。

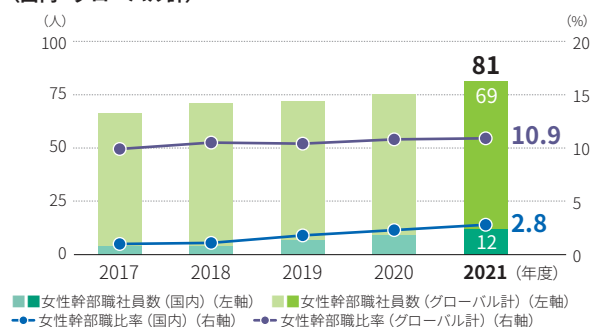
太陽光電力発電量 / 消費量 / 自家発電比率 (アンリツグループ)



2020年10月にAnritsu Company (米国) に1,100kWの太陽光発電設備を設置した結果、2021年度の太陽光電力発電量は、前年度から402%増加し、4,476MWhとなりました。自家発電比率は前年度の3.3%から13.5ポイント向上し、GLP2023の目標である13%以上を超える16.8%となりました。

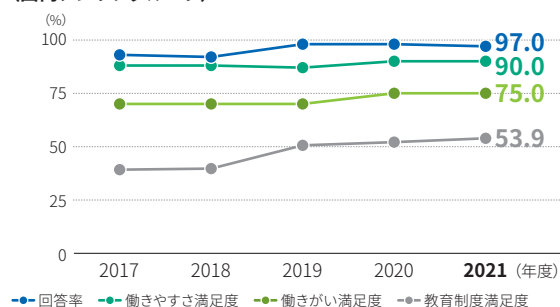
* 太陽光電力消費量 = 太陽光電力発電量 - 余剰電力 (電力供給会社に無償提供)
自家発電比率 = 太陽光電力消費量 / 2018年度の電力消費量

女性幹部職社員数 / 女性幹部職比率 (国内・グローバル計)



アンリツグループでは、中期経営計画GLP2023のダイバーシティ推進のKPIとして、2023年度までにグローバルの女性幹部職比率15%以上を目指しています。課題である国内の女性幹部職は、2021年度に前年同期比で3人増え、2.8%、グローバルでは10.9%となりました。また、アンリツ株式会社では、「国内新卒採用に占める女性割合を20%以上にすること」を目標にしており、2022年4月入社の新卒採用者40人のうち女性は12人で、女性の割合は30%となりました。

社員満足度調査 (国内アンリツグループ)



国内アンリツグループが毎年全社員に実施する社員満足度調査 (ESサーベイ) は、高い回答率 (90%以上) を維持しており、働きやすさ満足度は85%以上、働きがい満足度は70%以上と高い水準となっています。一方で、教育制度の満足度は、2017年度に手上げ制に制度を変更したところ、40%以下となりました。その後、満足度は徐々に向上し、2021年度は53.9%となりました。